

# 平成17年度第1回和光市国際化推進懇話会会議次第

日時 平成17年 7月25日(月)午前10時から  
会場 和光市役所 6階 602会議室

## 議 題

### 1 和光市国際化推進計画の見直しについて

(1) 「第2章 国際化の現状と課題 1 和光市の国際化の現状」の訂正・変更点について

(30分程度)

(2) 「第2章 国際化の現状と課題 2 和光市の国際化の課題」の訂正・変更点について

(30分程度)

(3) 「第4章 国際化推進の施策 2 施策の内容」について

(30分程度)

(4) その他の部分の訂正・変更点について

(15分程度)

### 2 その他 (15分程度)

(1) (仮)ロングビュー・ウィークの正式名称について

(2) 和光市文化紹介・国際交流バスツアー……昼食時間の交流

(3) 第2回会議開催日について

第2回会議は、平成17年 月 日( ) に開催します。

\*会議の内容、場所等詳細につきましては後日御連絡させていただきます。

第2章 国際化の現状と課題

1 和光市の国際化

		現在の計画(現状・課題)の記載内容	見直すべき点、変更後の内容案	*参考・・・和光市の現状・実績
(1) 国際感覚豊かな市民の育成	a 市民のボランティア活動	<p>&lt;現状&gt;市民によるボランティアも活発で、これに加え、企業内の外国人支援のための組織、学校を中心とした取組なども積極的に行われていることから、今後の推進計画を進める上で、これらの活動と常に情報を共有し、支援していくことは大切な要素です。</p> <p>&lt;課題&gt;今後ますます高揚するであろうボランティア意識を背景に、NGO・NPOを含む国際化に向けての市民活動を広く支援します。</p>	<p>&lt;課題&gt;市民活動を行政も先頭にたって広く支援します。(豊委員)</p> <p>外国での自分の体験から申せば、和光市の外国籍住民もせっかく日本に来たのだから、日本語をマスターし、日本の文化(料理、風習など)を学習したい気持ちがあるはず。いたずらに英語や彼らの母国語で話しかけられるよりも、正しい日本語で正しい日本文化を伝えてあげてを求めている。「郷に入っては郷に従う」でよるしいのではないか?最もグローバル化が進んでいる企業の一つであるホンダが和光市にありながら、そのホンダからせめてその体験の一端でも伺える機会を設けられない行政は怠慢である。(鈴木委員)</p> <p>日本語ボランティアの研修-外国人に日本語を教えるボランティアの研修を行う。(井上会長)</p>	<p>市民による国際化推進に関するボランティア活動の例・・・各国際交流団体の活動、市事業(ワンナイトステイのホストファミリー登録、市民まつり参加協力など)への参加。</p>
	b 和光市国際ネットワーク	<p>&lt;課題&gt;「国際化推進ネットワーク」の創設を検討します。</p>	<p>課題 和光市国際ネットワークの一層の充実を図ります。(豊委員)</p> <p>国際化推進ネットワークの活動を強化するため、以下の取組をする。</p> <p>(1) 姉妹都市提携先のロングビュー市との連携強化策の企画立案と実施計画策定</p> <p>(a) 和光市とロングビュー市への新たな提案の策定</p> <p>(b) 共通関心事項の確認作業</p> <p>(c) ロングビュー市常設展示コーナーの企画立案と設置</p> <p>(2) 市内国際化推進強化策の提案</p> <p>a) 市職員のコミュニケーション能力の強化策</p> <p>b) 市在住外国人向け「和光市の国際化推進活動」英文パンフレットの作成 (3) 市在住外国人に対するアンケート調査と懇談会の実施計画策定 (4) 市在住外国人の活用策の企画立案と実施計画策定 (5) 「計画」推進状況のフォローと問題点の指摘および改善策の提案 (吉井委員)</p> <p>「和光市国際ネットワーク」があるのに、なぜその様な組織を創設するのか不可解。今のネットワークの参加団体を増やし新たな活動内容を増やすことを心がけるべき。(鈴木委員)</p>	<p>和光市国際ネットワークは平成15年に創設された。主な活動内容・・・市民まつりの国際化PR活動、市事業に対する提案(予定)</p>
	c 国際理解教育	<p>&lt;現状&gt;学校を中心とした取り組みなども積極的に行われていることから、</p> <p>&lt;現状&gt;英語を学んだり教えたりすることはできても、その英語を使って伝えるべきものは育っているでしょうか。今まで以上に外国と接することが日常化するこれからの時代、アイデンティティーをしっかりと確立することは大切なことです。</p> <p>&lt;課題&gt;単に外国語の能力や知識を持っているだけでは不十分、自ら外国を理解する課程で自国の文化や歴史、考え方を認識し、それを外国に向けて発信していくことが必要不可欠です。</p>	<p>課題 小・中・高校での国際理解教育を、それぞれに情報交換するなどして、学校間の連携を図り、各学校段階での国際理解教育の充実を図ります。また、学校教育だけでなく、生涯学習としての国際理解教育を一層推進していきます。(豊先生)</p> <p>コミュニケーションの手段として学校以外で市民に外国語学習の機会を作るのであれば、和光市在住の外国籍市民にボランティアで指導してもらおう場を設定しては?外国籍住民も地元への貢献、コミュニケーションの機会を求めており、それを通じてお互いの交流チャンスが増える。(鈴木委員)</p> <p>先進国のみならず、世界の貧困地域等の理解も必要。</p> <p>英語だけでなく、それ以外の言語の紹介。(坂井委員)</p> <p>国際理解教育=英会話ではなく、小さいときから多文化共生教育が非常に大事。学校で母国語の勉強ができないか。母国語ができるひとがいればこどもの心のケアが出きると思う。(井上会長)</p>	<p>小・中学校での教育以外に、生涯学習として外国語講座等各種実施。</p>

(2) 外国人にも住みやすいまちづくり	a 和光市の外国人市民の現状	<課題>和光市に居住する外国人の数はこの10年で約3倍に増加しています。それら外国人が個々の共同体を作るのではなく、生活情報やルールを周知することにより和光市民としての自覚を促し、コミュニティーの一員として迎え入れることが必要です。	<課題 国籍別で見た和光市に居住の外国籍市民のニーズを把握し、適切な対応を図ります。(豊委員) 市在住外国人に対するアンケート調査の実施。市からの提案、要望も伝え、双方向性をもたせる。(吉井委員) 市在住外国人に市民活動への参加を促し、市民意識を高めるとともに、市民の内なる国際化意識の高揚を促すため、在住外国人ボランティアによる「国情紹介・日本との関係」講演会、市民祭りに「特設テント展示」など働きかける。(吉井委員) 英語一辺倒ではなく、現実の外国籍住人の実態に合わせた対抗が必要。(鈴木委員) 外国人を受け入れる側の問題をどうするか。(外国人からの意見)不動産屋に外国人だという理由で断ることを禁止する。これは無理であれば、外国人を断る不動産屋のリストを作成して発表する。(坂井委員) 行政情報にひらがなによるルビをふる。 日本語を母語としない市民の暮らしを豊かにする生活支援に関する情報。(井上会長)	和光市の外国人市民は、1,303人(6/23現在)。国籍別でみると、一番多いのは中国で全体の43%を占める。次いで韓国及び朝鮮が16%、フィリピンが6%、アメリカが4%、タイが2%となっている。
	b 行政サービス	<現状>環境整備面では各種表示への英語併記が進められ、庁内窓口での英語パンフレットの配備、担当箇所への外国語堪能職員の配置など、様々な要望に添うかたちで充実してきたものといえます。	課題 各種表示について、英語表記のみならず、中国語や韓国語による表記についても今後検討していきます。(豊委員) 日本という外国に来るからには、難民でない限り、英語でのコミュニケーション能力は持っているとの前提で対処して差し支えないと思う。ただし、行政が住民の数%しかいない外国籍住民のために貴重な財源を使うことには、住民全体の理解が必要で、行政はそのための情報を公開しなければならない。(鈴木委員) 多言語での刊行物の存在を、外国人または外国人に関係ある人にアピール。(坂井委員) その他の言語については、外国人登録者数等の状況を考慮し、順次多言語化を図る。 日本語を母国語としない人も安心して快適に過ごせる環境づくりの整備を進めるため、行政情報の作成に配慮する。 ・防災、医療情報など生命に関わる情報 ・給付、助成、税金、罰則など権利や義務に関わる情報 ・労働、子育て、教育など特に重要な生活支援に関する情報(井上会長)	施策実施状況表のとおり。
(2) 外国人にも住みやすいまちづくり	c 情報の発信と共有の仕方	<課題>現在英語に偏りがちである外国人向け表記を多言語化・絵文字化することも必要です。	課題 ホームページの英語版を一層充実させるとともに、中国語版や韓国語版の作成についても検討していきます。また、発信が一方通行になりがちなことから、いろいろな場面、いろいろな機会を通じて、情報の収集・交換を図っていきます。(豊委員) 同上(鈴木委員)	HPの英語版は、生活情報等を提供しているが、インターネットを除くと、外国人市民に確実に情報を届ける手段はない。ネットワーク会員に市の事業等に関する情報を提供し、日頃交流のある外国人に呼びかけをお願いしている。
(3) 多面的な国際交流・姉妹都市関係の確立	a 姉妹都市との交流(市民・中学生)	<現状>ロングビュー市との交流は、平成11年に正式に姉妹都市調印となり中学生、一般市民派遣とも確かな実績を重ねつつあり、両市の友好の絆はより深いものとなってきました。 <課題>姉妹都市交流は現在は和光市からのみの訪問であることから、ロングビュー市からの派遣を要請し双方向の交流を目指します。	課題 姉妹都市ロングビュー市についての市民の認知が十分でない現状があるので、まずはロングビュー市の周知を徹底するための取組を行います。また、ロングビュー市からの和光市への派遣を要請し、双方向の交流を推進します。(豊委員) ロングビュー市との関係を友好親善目的から一歩進め、両市の共通関心事項を確認し、両市で比較検証作業を行う。ロングビュー市常設展示コーナーを設置する。(吉井委員) ロングビュー市との姉妹都市調印の経緯、目的、その効果を具体的に知らせるべきである。先方も同様の評価をしているはずであり、先方にとってもメリットがないものを、「こちらへ来い」といっても来るはずがない。(鈴木委員)	中学生海外派遣・・・17年度から、参加費を徴収する代わりに参加人数が増。より多くの中学生の参加が可能に。 市民海外派遣・・・16年度は実施。参加希望者が少なく、そのために一人当たりの負担も大きくなってしまった。17年度は実施しないが、市民の要望や記念年の派遣を考える方向。参加希望者を増やすためにも、市民に対して姉妹都市の周知度を上げることが課題。市民まつりや(仮)ロングビュー・ウィークにて積極的なPR活動を行う。 懇話会で正式名称を決定していただきます。

<p>の確立</p>	<p>b 国際交流事業</p>	<p>&lt;課題&gt;和光市に居住する外国人の約6割がアジア出身者であることから、今後アジアの近隣都市との意見交換など多面的な国際交流も視野に入れる必要があります。</p>	<p>ロングビュー市との現状にもかんがみ、アジアとの交流は、外国籍住人との具体的な市民の交流が盛り上がった結果として、姉妹都市調印などに進めば、それでよい。(鈴木委員)</p>	<p>外国人市民と一般市民の両方を対象にした事業(和光市ワンナイトステイ、バスツアー)を実施予定。新たな交流の機会を提供することで、市民同士のつながりの進展を期待。</p>
<p>(4) 行政の国際化推進</p>	<p>a 庁内国際化推進</p>	<p>&lt;現状&gt;行政を担当する職員も市民も等しく、高い見識に基づいた柔軟な国際性が今後ますます必要となることを意味しています。</p>	<p>課題 職員に対して、和光市の国際化推進に関する取組をきちんと伝え、庁内での職員研修に「国際化推進」のテーマを取り入れ、積極的に国際化の推進を図ります。(豊委員)          ロングビュー市とのコミュニケーション能力の向上のため、関係市職員が和光市の概要と担当業務を英語で伝達できる能力の獲得。外国人と接触の多い部署も同様。職員の国際化対応研修もこの観点を重視する。(吉井委員)          和光市の国際化推進活動に関する英文パンフレットを作成、配布する。ホームページ英語版にも載せる。(在住外国人が参加、活動できる場があることの周知)(吉井委員)          市はわずか2%程度の外国籍住人のために、職員の教育を含めたすべての国際化のための支出を市民に明示して、市民の理解を得ながら行政の国際化を進めるべきである。(鈴木委員)</p>	<p>国際化推進の視点での事業等実施。          例・・・職員国際化研修の実施。</p>
	<p>b 市民に対する広報活動</p>		<p>課題 市民に対する広報活動においては、広報やホームページ、諸事業を通して、積極的に和光市の国際化推進に関する取組を伝えていきます。外国籍市民に対しても、彼らのニーズを把握し、可能な限りニーズに応えていくようにします。(豊委員)          同上(鈴木委員)</p>	<p>各種情報は、広報やHPを通して提供している。外国人市民向けの情報は、英語で提供することが多い。他言語による提供のニーズもある。</p>
<p>(5) その他</p>		<p>&lt;現状&gt;施策の一つとしてあげられた市民と行政の中間的役割を果たす「和光市国際化協会」は、財政的な困難もあり、残念ながら未だ発足に至っていません。</p>	<p>現状 和光市国際ネットワークを発足させたが、その一層の充実を図るとともに、さらに広範な関係諸機関・関係団体を結集して「和光市国際化協会」を発足させていくことを検討します。(豊委員)          国際化推進の諸施策は、財源に問題がない前提であればまことに結構である。しかし、行政改革が進められている現状、市民の賛同を得てバブル期の発想は根本から見直すべきである。(鈴木委員)</p>	<p>「和光市国際化協会」の発足は検討していない。</p>
		<p>&lt;課題&gt;和光市国際化交流協会」を目標とする、準備機関としての「国際化推進ネットワーク」の創設を検討します。</p>		<p>「和光市国際ネットワーク」を創設したが、「和光市国際化協会」準備機関としてではなく、市内で国際交流や国際協力を行う団体が活動を展開する上で、それぞれが有する課題等について、相互に情報交換や協働活動を行うことにより、各団体の活動の効率化を図ることが目的である。</p>